

# シニア男性の「潜在力」を活かした子育て支援活動 「朝霞市ぐらんぱ育児支援事業」の取り組み



朝霞市健康づくり課専門員兼保健係長 望月 三枝子（保健師）

## 1 はじめに

行政は、住民の健康課題に対し個別に関与しつつ、その課題を保健統計や健診データの集積に加え、個人を取り巻く「家族」や「周囲の人々」「環境」と切り離さずとらえて分析して、個の支援から地域の健康課題の把握へとつなげ、課題解決の方策を計画実践し、その働きかけのプロセスを結果と結びつけて評価を行うという、PDCAサイクルの流れを実践している。

今回、健康長寿を目指し、市のシニア男性の健康づくりと、地域の子育て支援という健康課題を組み合わせた事業づくりを展開した。

今回はその取り組みを、事業実施の経過、評価と今後の課題について紹介する。

## 2 事業実施の経緯と目的

朝霞市の人口は13万1594人（平成25年1月1日現在）、市の平均年齢は平成24年41.4歳であり、高齢化率は17.2%で、国24.35%・県21.7%より低く、出生率は10.3%で、県内3位と若い市である。しかし、市の将来推計人口からも急速な高齢化が進むと推計されている。

市では、従来から、健康づくりや介護予防事業の取り組みとして各種健康診査や認知症予防事業などを実施している。平成24年度、健康長寿埼玉プロジェクトのモデル都市に指定された事を受け、健康で長寿を喜べる市民を更に増やすため、健康づくり・生きがいがづくり・社会参画をキーワードに「彩夏ちゃん健康長寿プロジェクト推進事業」を開始し、その

一つとして「ぐらんぱ育児支援事業」を実施することとなった。

本事業を企画した経緯は、優先される健康課題の一つとして、図1-①シニア男性の健康づくりの必要性があった。このことは、各種保健事業（健康診査・健康相談・健康教育・家庭訪問と地域住民の組織活動支援等）から把握しており、これら事業の中でシニア男性の特性として「求められないから（行くところもない）出掛けない。」「出かける要もない」・「プライドが高い」という声を本人や家族から把握していた。また、公民館職員からは、シニア男性が多く参加する公民館活動は少ないが「〇〇大学等認められる」という事が伴う講座への参加は多いという声も把握していた。一方で、図1-②のとおり、従来より当市の子育て支援の課題は多く、地域（子ども・保護者・子育て支援関係機関等）は様々な子育て支援を求めている実態があった。そこで、社会的な経験豊かなシニア男性の潜在力を、子育て支援活動に活かす本事業への参加をとおして、社会参画・生きがいがづくり、健康づくりを推進するため「ぐらんぱ育児支援事業」を実施することとなった。

## 3 事業内容

### 第1弾：公開シンポジウム：対象市民 83名参加

本事業について、子育て支援と地域づくりの視点で著名なシンポジストを招き、市がシニア男性の「社会経験」「知識」「技術」といった「力」を求めているというメッセージを広く市民に届け、シニア男性の社会参加を薦める動機付けの機会とした。

図1 <① 市の健康課題について >

<シニア男性の健康づくりの必要性>

- ・急速な高齢化・・・平成23年 16.8%  
平成37年 23.3%  
平成47年 29.8%
- ・65歳前後の男性は社会参加が少ない。
- ・高齢夫婦世帯増加 ・要介護認定・・・認知症が1位
- ・特定保健指導該当者の多い世代

- ・生活習慣病の悪化：医療費高騰
- ・閉じこもり：うつ、認知症高齢者増加  
：介護保険費の高騰

<② 市の健康課題について >

<子育て支援の必要性>

- ・出生率・・・平成24年 10.3  
(県内3位：例年ベスト5以上)
- ・転入者が多い
- ・地域のつながりが希薄
- ・育児の孤立化
- ・核家族・・・身近な育児支援者減少

- ・児童虐待 ・いじめ ・不登校
- ・発達障害児問題

「ぐらんば育児支援事業」55歳から70歳男性限定！！

(目的) 社会的経験豊かなシニア男性による育児支援活動をつくり、生き生きとした社会参加を促す。



写真1 (シンポジウム)

(シンポジウム参加者の声)

「ご恩返しのため、地域貢献する事が大切だ」  
「朝霞に住み30年、子ども達は他市に住み、子ども達が住みたいと思う朝霞にしなければ、私の老後は寂しいな」「自分の経験から、子どもを育てる環境を支援したい」「街を歩いていて、挨拶ができ、挨拶してもらえうれしさのある生活ができるといい」・・・等、第2弾のマイスター養成講座に参加し社会参加活動へつながる、きっかけとなった。

第2弾：ぐらんば育児支援マイスター 養成講座

子育て支援活動を担う“人づくり”のために、90分を1単位とした“子育て支援”に関する、知識・技術の講義と、保育園・小学校・放課後児童クラブでの実習体験からなる30単位（約12日間）の養成講座を実施し、認定資格を与えた。（子育て支援者の養成講座を実施し認定資格を与えているNPO法人に委託）20名のシニア男性が参加し、16名のマイスターが誕生した。



写真2 (講座の様子)

この講座は、学識経験者と教育・保育等の子育て支援現場担当者と、教育長、子育て支援課長等の行政担当者が講師をした。講義だけでなく、保育園や小学校、放課後児童クラブでの実習という体験が、自主的な活動づくりに発展した核であったと思われる。(表1・表2参照)

表1 <受講生の声>

(実習前)	(実習後)
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもとの接し方がわからない。不安。</li> <li>授業参観もしたことがない。まして、現代の園・学校はわからない。</li> <li>子どもに近づけば不審者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと遊ぶ事ができた。</li> <li>子育て現場に男性が少ない。</li> <li>先生達が本来業務ができるよう環境支援をしたい。</li> <li>放課後の時間帯の子どもの支援ができるのでは・・・等。</li> </ul>

表2 <保育園・小学校・放課後児童クラブの声>

(実習前)	(実習後)
<ul style="list-style-type: none"> <li>シニア男性の社会参加は重要。活躍を期待する。</li> <li>実習により何ができるのか。</li> <li>業務多忙で調整が大変。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シニア男性と子らの交流は重要。</li> <li>信頼のおける子育て支援活動を担うシニア男性が誕生。</li> <li>シニア男性のサポートで本来業務ができた。</li> <li>遊び、宿題、帰宅支援に期待。</li> </ul>

各実習は1日ずつではあったが、受講生が、3カ所の子育て支援機関の実習を行ったことで、地域に暮らす子ども達の実態と、役割の違う各機関の現状を関連づけて見る体験となった。また、これら3つの機関の担当者が、この養成講座の中で一同に会する機会もあり、お互い理解不足だった役割等を学び合い連携する機会にもなった。

この実習により受講生は「何かできるかも」の思

いに至ることができ、また実習先となった子育て関係機関も、マイスターの、何らかの子育て支援活動に期待を持つことができたのではないかと思われ、子育て支援活動がしやすい基盤づくりの第1歩になったと確信している。



写真3 (認定式)

認定式では、市長からのお祝いのメッセージの他、講師や実習先の校長先生や園長先生等来賓者からのコメントもあり、受講生一人一人と家族からもコメントをもらった。これからの活動づくりへの意欲や、実現したい抱負等が語られた。

認定の重みは、受講生の活動づくりの意欲に大きく影響していると思われた。

### 第3弾：マイスター活動「朝霞ぐらんぱの会発足」

マイスター認定後、活動づくりの話し合いの場を設定した。活動づくりのイメージを示す事と、仲間づくり、自主組織づくりのために、受講生一人一人の最終課題レポート(朝霞市ぐらんぱ育児支援マイスター活動について)のプレゼンテーションを行った。その後、会則作りや組織作り、活動作りへと発展し、マイスター認定者を含む19名で「朝霞ぐらんぱの会」を立ち上げた。

現在では、マイスター認定証を活かした子育て支援機関での支援活動と、子育て支援の講座の企画や、研鑽事業、市内子育て支援団体との連携活動等の主体的活動が実践されている。

現在の活動状況は次のとおりである。

**\* マイスター活動として関係機関からの依頼活動**

- 1) 保育園月1回・・・一緒に遊ぼう保育園に参加
- 2) 小学校
  - ・サマースクール支援・放課後補習学習支援
- 3) 放課後児童クラブ
  - ・週1回から月2回程度の遊びや帰宅支援
- 4) 地域（団地）での活動づくり
  - ・夏祭りやお餅つき大会等イベント時に参加  
パパ達を応援したい。

**\* 「朝霞ぐらんぱの会」主体活動**

- 1) 市民企画講座（生涯学習課）にエントリー  
子育て支援の講座の実施：市民対象2回実施
- 2) 子ども大学に参加  
活動紹介及び子どもとの触れ合いのため
- 3) 健康づくり活動  
健康づくりの講座の実施
- 4) 他の地域活動団体との交流  
子育て支援関連に限らず



写真4（朝霞ぐらんぱの会企画講座）

## 4 評価

『受講生』からは「この事業に参加して、地域の男性仲間に出会えた」「自分のライフスタイルに応じて何かやれると思った」「子どもの声は楽しい。地域の子どもは、地域が育むだよね」「子どもと遊ぶから、足腰元気じゃないとね。万歩計の歩数が伸びたよ」「僕達（シニア男性）は、教養（今日の要

と教育（今日、行くところ）があるんだよ』、『家族』からは、「何か始めたみたいで、気になる夫になった」「次回は、何の遊びが子どもと出来るか考えるようになった。忙しそう」、そして『地域』からは「ぐらんぱって何？」という、疑問や期待を含んだ反応が聞こえてきている。

## 5 まとめ・課題

当市の、第4次総合振興計画の将来都市像は「水と緑に満ちたやすらぎと生きがいのあるまち 朝霞」であり、その基本方針は「パートナーシップによるまちづくり」となっており、その施策の一つに「皆で支え合う健やかな社会づくり」があり、本事業はその中の一事業となっている。

健康長寿を薦める要因としては、「健康づくり」「生きがいづくり」「社会参画」と言われており、本事業は「生きがいづくり」「社会参画」に視点をおき、当市の健康課題である、シニア男性の健康づくりと、子育て支援を組み合わせた事業づくりを行った。本事業の中では、受講したシニア男性達と活動を創る事を共有した結果、養成講座という“人づくり”から、「朝霞ぐらんぱの会」という“仲間づくり”へ発展し、その活動から、地域の子ども達とシニア男性や関係機関等との緩やか“つながり”が生れてきている。「助け合い」「つながり」などから生み出される、「住民の底力」や「地域の絆」といった、ソーシャルキャピタルの醸成されている社会は、健康度が高く健康長寿に結びついているとも言われている。

平成24年度は、県からの補助を受け、本事業を実施してきたが、養成講座までの実施となった昨年度の状況からは、健康長寿への成果を導き出せず、平成25年度は市事業として実施している。今後はシニア男性による地域の子育て支援活動が、シニア男性の「健康づくり」「生きがいづくり」「社会参画」につながるという成果を示していく事が、課題である。



彩夏祭シンボルキャラクター  
彩夏ちゃん